

3

六年生の山田さんの学級では、『一休さん^{※1}とんち話』という本を読んで、紙しばいを作り、一年生に読み聞かせをすることにしました。そこで、山田さんのグループでは、その本の中から次の【びょうぶ^{※2}のとらのお話】を選び、場面の様子を【四枚の絵】に分けてかきました。あとの問いに答えましょう。

【四枚の絵】

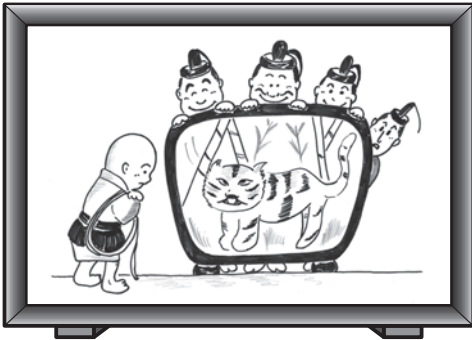
【びょうぶのとらのお話】

の中の1から5までは、まとまりを表しています。

〈絵1〉



〈絵2〉



一休さんと、とのさまの話です。
 とのさまは、とんちで有名な一休さんを少し困らせてみようと思い、一休さんをおやしき^よに呼びました。そして、
 「これこれ一休。たのみたいことがあるが、聞いてはくれぬか。」
 「はい、なんでしょう。」
 とのさまは、おそろしいとらの絵がかいてある、びょうぶ^{こま}を指さして、
 「実は、このとらじゃ。毎晩飛び出しては、やしきの中を暴れ回るのだ。
 一休、このとらを暴れぬように、しばりあげてはくれぬか。」
 と言いました。

1 一休さんは、それを聞くと、
 「かしこまりました。」

と言って、さっと立ち上がりました。そして、

「では、とらをしぼりあげるためのなわを貸してください。」

と言いました。とのさまは、家来に言いつけてなわを持って来させました。一休さんは、なわを受け取り、広間のすみに下がりました。

2 「では、これから、とらをしぼりあげます。とのさまや、家来の方々は、びょうぶの裏に回ってください。とらが飛びかかるといけませんから……。」

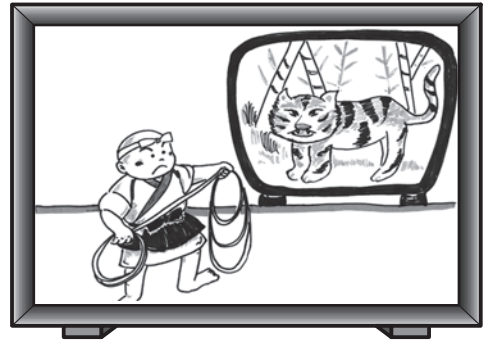
3 とのさまと家来は、言われるとおりにしました。一休さんが、何を始めるのかと思いましたが、とりあえずびょうぶの裏に行きました。そして、にやにや笑いながら、様子を見ていました。

一休さんは、はちまきをしめ、たすきをかけて身じたくを整え、いよ

〈絵4〉



〈絵3〉



いよなわを手に持ち、びょうぶの前に進み出ました。それから、足をふんばり、びょうぶの前で構えて言いました。

「やい、とらめ。とのさまの言いつけでお前をしばりあげるぞ。さあ、出て来い。勝負だ。」

4 一休さんは、大まじめです。とらは、もちろん出て来ません。

「さては、おそれをなしたか。とらめ、出て来ないな。」

そう言うってから、

「びょうぶの裏の家来の方々、そこで大声をあげて、とらを追い出してください。出て来ないとしたら飛ばしませんからね。」

5 それを聞いた家来たちは困りました。とのさまはおこり顔で、

「何を言うか、一休。絵のとらが、追い出せると思うか。」
と言いました。

「それはおかしい。先ほどのさまは、このとらが、毎晩飛び出して暴れ回るとおっしゃいました。ひとり飛び出すくらいですから、家来の方々に追いつけないわけがないでしょう。」

「ううむ。」

とのさまは、うなって何も言えなくなっていました。

一休さんは、続けて、

「それとも、晩にならないと、出て来ないのでしょか。でしたら、今夜、もう一度やり直しましょうか。」

それを聞いて、とのさまは、

* 「もうよい。わしの負けじゃ。」

と言いましたとさ。

※1 「どんち」……………その場ですぐに出るちえのこと。

※2 「びょうぶ」……………部屋の中に立てて、かざりや仕切りなどにするもの。

— 山田さんのグループの三人は、だれが、どの場面を読むのかについて話し合っています。次の【話し合いの様子①】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。


【話し合いの様子①】

山田 

【びょうぶのとらのお話】の内容と【四枚の絵】とを関係付けながら考えよう。

↳（絵1）についての話し合い…省略）↳


小川 

【びょうぶのとらのお話】の中の  の部分を、〈絵2〉と〈絵3〉に分けてかいたよね。〈絵3〉の始まりをどこにしたのか確認かくにんしてみよう。

高木 

〈絵2〉は「一休さんとのさま、家来とがやりとりをしている場面」、〈絵3〉は「とらを追いつと動き始めた場面」にしたよね。

↳（話し合いが続く）↳

（問い） 〈絵3〉の場面は、【びょうぶのとらのお話】の  の中の1から5までのどこから始まりますか。最も適切なもの一つを選んで、その番号を書きましょう。

二 山田さんたちは、【びょうぶのとらのお話】のおもしろさについて、一年生にどのように伝えたらよいか話し合っています。次の【話し合いの様子②】をよく読んで、あとの（問い）に答えましょう。

【話し合いの様子②】

山田



一休さんが家来たちに、「とらを追い出してください。出て来ないと思われませんかからね。」と言ったところがおもしろいよね。

小川



私もそう思うわ。とのさまが言った無理なことに対して、一休さんがちえを働かせているところよね。とのさまはおこって言い返したけれど、一休さんに「それはおかしい。」と言われて、「ううむ。」とうなってしまったよね。

高木



最後に、とのさまは、「もうよい。わしの負けじゃ。」と言ったけれど、どんな気持ちだったのかな。どんなふうに住むといいかな。いろいろな読み方を考えてみよう。

（話し合いが続く）

（問い）

「もうよい。わしの負けじゃ。」を、あなたならどのように声に出して読みますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 声に出して読むときにくふうすることを書くこと。くふうすることとしては、例えば、声の大きさや高さ、読む速さなどがある。
- なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとのさまの気持ちを取り上げること。
- 四十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

